

2026 ズバリ! 的中



世界史

京都大学

イル=ハン国の宰相ラシード=アッディーン⁽¹⁾の著書『集史』が書かれた言語を問う問題がズバリ的中

入試問題

前期日程
大問IIA (6)

河合塾

直前講習 京大本番プレテスト
大問IIB (15) (イ)

II 世界史探究問題 (30点)

次の文章(A, B)を読み、下線部(1)~(9)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 15世紀以前の西アジアでは、騎馬遊牧民の軍事力が戦場において圧倒的優位を保っていたが、この状況は16世紀を境に徐々に変化していった。

13世紀前半にモンゴルが西アジアへの進出を開始すると、この地域の情勢は激変した。モンゴル軍は1243年にアナトリア東部のキョセ=ダグ⁽¹⁾で行われた戦⁽²⁾で現地のセルジューク朝勢力を撃破し、これを服属させた。また、1258年にはバグダード⁽³⁾を占領し、アッバース朝最後のカリフを処刑した。モンゴル軍はさらにシリアへの進出を目指す⁽⁴⁾が、この企ては新興の mamluks 朝により阻止された⁽⁵⁾。一連の征服活動の結果、イラン、イラク、イル=ハン国⁽⁶⁾の領土となった。以後、およそ1世紀の間、西アジア地域では、西に mamluks 朝、東にイル=ハン国という、いずれも遊牧民に出自をもつ騎兵を軍隊の中核に据えた国家が対峙することになった。

イル=ハン国は14世紀半ばには崩壊し、その後、イランとその周辺には様々な地方政権が成立した。つづく14世紀後半から15世紀初めにはティムールがイランのほかシリア、アナトリアにまで進出⁽⁷⁾し、一時的にイランは再統一された。しかし、15世紀後半になるとイランの西部はティムール朝の支配から離脱した⁽⁸⁾。

16世紀に入ると、西アジアの勢力圏は再び大きく変化した。この世紀の初め、中央アジア北方の草原地帯で勢力を拡張していたトルコ系遊牧民のシャイバーニー朝⁽⁹⁾が南下してティムール朝を破り、中央アジアからイラン東部へと進出した。滅亡したティムール朝の王族の一人であるバーブルは、南方に活路を見出し、のちにインドでムガル帝国を建設した。

同じく16世紀の初め、イラン西部では、神秘主義教団に起源を持つサファヴィー朝が、やはりトルコ系遊牧民の軍事力を背景に建国し、1510年にはシャイバーニー朝との戦いで勝利してイラン東部も奪った。こうして、イラン

II 世界史探究問題 (30点)

次の文章(A, B)を読み、

の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)~(2)について後の問に答えよ。(史料には、一部省略したり、改めたところがある。)解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

B 中央アジアのアラル海に流れ込む、アム川・シル川両川に挟まれた地は、アラビア語でマー=ワラー=アンナフル(川の向こうの土地)と称され、今日ではウズベキスタンやタジキスタン、カザフスタン、キルギスなどの諸国家が栄えている。8世紀のウマイヤ朝の進出以降、イスラーム化が進行したこの地に劇的な変化が起こったのは13世紀のことであった。チンギス=カン(ハン)率いるモンゴル軍により、ホラズム=シャー朝は崩壊し、サマルカンドや

などのオアシス都市は破壊・略奪された。その後、マー=ワラー=アンナフルの大部分はチャガタイ=ハン国の支配下に置かれたが、14世紀になると内紛により、チャガタイ=ハン国は東西に分裂した。

西チャガタイ=ハン国の貴族出身であったティムールは、対立する部族勢力を屈服させ、1370年にマー=ワラー=アンナフルを統一した。ティムールはサマルカンドを都に定め、チンギス=カンに破壊された旧市街の南方に、新たに新市街の建設を開始した。その後、ティムールは東西への遠征を開始し、イル=ハン国分裂後の西アジアに進出して、1390年代前半にバグダードを占領した。そして1390年代末にインドに侵入してデリーを占領し、エジプトの mamluks 朝からシリアの一部を奪い、1402年にはアンカラの戦いでオスマン帝国のスルタンである

を捕虜とした。さらにティムールは、明朝支配下の中国の征服をめざしたが、遠征の途中で没した。こうしてティムールは、中央アジアから西アジアにかけて広大な帝国を築いた。その後、ティムール朝は明朝と国交を回復するなど善隣外交をとった第3代君主シャー=ルフの治世に黄金時代を迎えた。ティムール朝でトルコ=イスラーム文化が花開いた時期でもあり、帝国内の主要都市にはモスク・マドラサなどが建てられ、また第4代君主によって天文台が建設された。中国絵画の影響を受けてイル=ハン国で発達した写本絵画がティムール朝で最高の水準に達し、文学が発達した。

しかし、15世紀後半になるとティムール朝は内部抗争により分裂し、16世紀初頭には、トルコ系遊牧民のウズベク人を率いるシャイバーニーが北方から侵入して、マー=ワラー=アンナフルを征服した。ウズベク人は、かつてサーマーン朝も置いて

を都とするハン国と、アム川下流域を中心とするハン国に分かれて中央アジア西部を支配したが、さらに18世紀初めにはフェルガナ地方を中心とする=ハン国が自立した。しかし、19世紀半ばからこの地には次第にロシアの影響が及び、1890年代までに中央アジア西部はすべてその支配下に置かれた。

はサファヴィー朝のもとに再び統一された。さらにサファヴィー朝はアナトリアへの進出をねらったが、1514年にアナトリア東部のチャルディラーンの戦いで火器を有効に活用したオスマン帝国軍に敗れ、その試みは頓挫した。この頃から徐々にではあるが、西アジア地域でも火器を操る歩兵が戦場で重要な役割を果たすようになり、騎兵の地位が相対的に低下してゆく。オスマン帝国は1517年にマムルーク朝を滅ぼし、シリア、エジプトも領有した。こうして、16世紀前半以降、西アジアから南アジアにかけて、オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国という3つの大国が並立することになるのである。

- (6) この国の宰相であったラシード＝アッディーンは、歴史書『集史』を著した。この作品が書かれた言語の名称を答えよ。

ロシアはタシュケントにトルキスタン総督府を設置し、ウズベク人のハンにある程度の自治権を与えつつ、綿花栽培を拡大して中央アジア支配を進めた。これに対し、オスマン帝国に留学した経験を持つムスリムの知識人層は、教育改革などを通じてイスラーム世界の近代化をめざすジャディード運動を行い、運動は日露戦争を契機に高揚したが、総督府に弾圧されて挫折した。1917年にロシア革命が勃発すると、総督府は崩壊し、中央アジア各地では、バスマチ蜂起と呼ばれるムスリムのロシアに対する反乱が勃発した。しかし、ジャディード運動の指導者であったアブドゥラウフ＝フィトラトやファイズラ＝ホジャエフはボリシェヴィキに協力し、ロシアの内戦終結後に成立したウズベク＝ソヴィエト社会主義共和国では、ホジャエフが人民委員会議長に就任したものの、スターリン時代になるとジャディード運動は大粛清の対象となり、その運動家のほとんどが処刑されてしまった。

1991年にソ連が崩壊すると、中央アジア諸国は独立を達成したが、その指導者の多くは旧共産党の出身者であり、権威主義的な政権が確立されていった。2001年にアメリカ合衆国で勃発した同時多発テロ事件以降は、過激なイスラーム復興運動を取り締まるという名目で独裁が強化され、人権侵害や違法な弾圧などが西欧諸国によって指摘されるなど、中央アジア諸国は安定したとは言えない状況が続いている。

- (15) 次の史料は、14世紀初頭にイル＝ハン国で編纂された歴史書の序文の一部である。この史料を読んで、以下の問に答えよ。

オルジェイトウは「今日、神の恩寵により、大地のあらゆる地域はチンギス＝カンの後裔の勅命のもとにある。キタイとマチン、インド、カシミール、チベット、ウイグルの民や、その他のトルコ諸民族、アラブ諸部族、フランクが各々の民の歴史や物語や信仰についての書を持っていて、一部については知られたところである。諸地域図と諸道諸国誌も付して二巻本とし、先の史書とまとめられるように」とおっしゃられた。

(注) オルジェイトウ：イル＝ハン国第8代君主。

マチン：中国のこと。

フランク：ヨーロッパ人のこと。

先の史書：イル＝ハン国第7代君主の命で編纂が開始された史書。

(出典 『世界史史料2』 歴史学研究会編 岩波書店)

(ア) この歴史書を編纂した人物の名を記せ。

(イ) この歴史書は何語で記されているか。